

■大和田建樹 国文学者・詩人・歌人。野にあって、広範な創作・著作を成し、謡曲研究を開拓した。「鉄道唱歌」の作詞者。

おおわただけき

藩書調所・1857= 伊予・宇和島生まれ。宇和島藩士大和田水雲の長男。

温厚な父と芯の強い母に育てられ、

桜田門外変・1860= 3歳：

禁門の変・1864= 7歳：藩の祐筆岸田藤左衛門に就いて手習いを始め、
薩摩藩士密航1865= 8歳：中島源三郎に就いて大学の素読をした後、藩校（明倫館）に入学。
薩長同盟・1866= 9歳：

この間、和歌や俳句を独習、

明治維新・1868=11歳：藩儒加藤虎一郎の塾に入り、
戊辰戦争終・1869=12歳：四書五経など素読を終え、藩の中学校にあたる培寮に入学。詩作に関心をもって長恨歌や琵琶行を暗記。
初の日刊新聞1870=13歳：伯父穴戸千建に就いて正式に和歌を学ぶ一方、初めて藩公の御前で孝経を進講。

国学の修得に努める一方、

学問のすすめ1872=15歳：青年塾の教師となる。

明治6年政変 1873=16歳：建樹と改名。

佐賀の乱・1874=17歳：上京するも、

初の民間工場1875=18歳：故あって帰郷、神官に就いて雅楽を学ぶ。

三つの反乱・1876=19歳：広島に外国語学校が設立されるとともに入学、英語を学ぶ。

西南戦争・1877=20歳：

大久保暗殺・1878=21歳：母が死去したため、帰郷。

琉球処分・1879=22歳：上京、

交詞社の書記となり、英語・独語・羅句語・哲学・博物などを独習。

明治14年政変1881=24歳：

新体詩抄・1882=25歳：東京大学書記となり、博物場に勤務。ようやく生活が安定して、東儀彰質に雅楽を学ぶ。

岩倉具視没・1883=26歳：古典講習科講師となる。

秩父事件・1884=27歳：同科の国学者飯田武郷の娘と結婚。

内閣発足・1885=28歳：観世清孝に能謡を習い、

帝国大学始・1886=29歳：大学改革により辞職し、東京高師・東京女高師教授となる。長女が誕生。「書生唱歌」で唱歌始め、

国民之友始・1887=30歳：父・妹も東京に移して同居。詞華集「詩人の春」

初の対等条約1888=31歳：大倉六蔵宣悦に小鼓を習う。*初めて演能。翌々年にかけて「明治唱歌」（第1～5集）、「故郷の空」。

帝国憲法発布1889=32歳：金春五十男に入門して太鼓を習う。

帝国議会始・1890=33歳：父が胃癌で死去「涙の記」。次女が誕生。

足尾鉾毒始・1891=34歳：教職を辞し著述生活にはいる。待宵会を主宰し、和歌を指導。

大本教・1892=35歳：明治女学校に出講。*「謡曲通解」全8冊はまとまった注釈書として知られ、

郡司千島探検1893=36歳：立教女学校にも出講。病となった妻が死去「香の煙」。

日清戦争始・1894=37歳：再婚。「明治文学史」は日本最初の近代文学史研究である。

日清戦争終・1895=38歳：長男誕生。静修女学校講師のほか、近県の講習会講師を務める。

白馬会・1896=39歳：三女誕生。「増補謡曲通解」など、近代における謡曲研究開拓者としての業績も特筆される。

八幡製鉄始・1897=40歳：早稲田中学校・青山女学院講師となる。石井一斎に大鼓を習う。葉山に別荘新築。「散文韻文雪月花」

子規句歌革新1898=41歳：四女誕生。

Bushidou・1899=42歳：女子語学校・跡見女学校に出講。「散文韻文深山桜」

ピアノ国産化・1900=43歳：五女誕生。「汽笛一声」の「鉄道唱歌」。

田中正造直訴1901=44歳：郷里に招かれる「宇和島日記」。跡見花隠の依頼で四季習字帖の消息文を綴る。

教科書疑獄・1902=45歳：二男誕生。

日露戦争終・1905=48歳：

満鉄発足・1906=49歳：長女が結婚。

韓国反日暴動1907=50歳：次女が夭折「忍音の記」。リウマチになる。

アヲチ創刊・1908=51歳：*「謡曲評釈」全9冊は、謡曲研究の黎明に輝く金字塔である。

伊藤博文暗殺1909=52歳：脊髄炎で下半身不随となり、

韓国併合・1910=53歳：*海軍省教育本部から軍歌の依頼を受け、四編を作ったところで、病状が悪化、まもなく没した。

猿丸大夫の筆名で能評にも健筆をふるい、著書は97種、151冊は、詠草、和歌・国文学に関する辞典・文典・修辞学、文学史、史伝、紀行、新体詩、唱歌、欧米詩歌の翻訳など広範囲にわたる。広く愛唱された詩のほか、和歌は1万数千首におよび、没後の「大和田建樹歌集」に約4,500首が収められている。